



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	サブカルサプリ第22回 : 「祝!5・10・20周年!!」
Author(s)	山村, 高淑; Takayoshi, Yamamura
Description	サブカルサプリ第22回「祝!5・10・20周年!!」 : 埼玉新聞2012年8月26日版、特集「サイタマニア」、p.2
Citation	埼玉新聞
Issue Date	2012-08-26
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/50040
Type	article
File Information	20120826Saitamania subcul suppl No.22.pdf, 第22回



山村高淑の サブカル サプリ

アニメや漫画の舞台地が多いサブカル王国・埼玉。その魅力を「アニメツーリズム」の専門家、山村高淑氏が紹介する。



第30回土師祭のご開催、心からお慶び申し上げます。また、「らき☆すた神輿」5周年、本当におめでとございませう。

実は今年「らき☆すた神輿」5周年のほかに、日本のアニメ聖地巡礼史に残る、感動的な記念イベントが二つ開催されました。一つは「おねがい☆ティーチャー 放映&聖地巡礼10周年記念メインイベント Eccloria エクレシヤ」(8月19日長野県木崎湖)。もう一つは「夏への扉」20年目の同窓会(8月28日同県飯島町)です。

☆

前者は、2002年1月〜3月の『おねてい』放映後、様々なサークル・個人の皆さんが木崎湖を訪れるようになり、地域の方々との交流が進みました。例えば06年には、JR大糸線海ノ口駅にある桜の木の植え替えをファンの有志と地元の方が協力して実現しています。07年にはファン有志と地元関係者が連携して、作品の時代設定である17年まで変わらない美しい木崎湖の風景を残すことを目的に、清掃活動を核とした環境美化運動を進めるプロジェクト「みずほプロジェクト」が立ち上がりました。その後も、木崎湖キャンプ場さんや縁川商店(Yシヨップニン)さん、アルペンハイム山正旅館さん、星湖亭さんなどを中心に地元の方々はファンを暖かく迎え続けてくれています。

祝! 5・10・20周年!!

ファンの皆さんは里帰りするかのようにも何度も木崎湖を訪れ、10年が経ったのです。今回のイベントは木崎湖キャンプ場を事務局に、地元の皆さんとファンの皆さん、そして製作サイドの心が一つになって(井出監督、井上喜久子さんも参加!)、千人以上が集まって盛り上がった素敵なイベントでした。

☆

後者のイベントは、あの『究極超人あぐる』(1991年にOVAリリース)の舞台となった飯田線田切駅前で行われた「田切ネットワーク」創立20周年記念イベントです。主催した「田切ネットワーク」は、『究極超人あぐる』や飯田線好きのメンバーが集まってできた団体で、20年間毎年3回田切駅の清掃活動を続けています。

当日は、田切駅前の「元・下村酒店」で活動の記録写真や資料が公開され、メンバーが思い出話に花を咲かせました。同時に「田切駅」↓伊那市駅 1hour Bicycle Tour、轟天号を追いかけてというイベントも開催。こちらは伊那市役所自転車部 Cycle 倶楽部R・伊那市の暮らし100年地域活性化推進委員会が主催。伝説の名シーンを再現(?)すべく、自転車で田切駅から伊那市駅前の西園寺ツリスト(モデルになった場所)まで1時間で走り抜けるという企画でした。約80名が参加し、ゴール地点では劇中にあった「17:59:59

のスタンプ」をもらう!という気合の入れよう。伊那市駅前ゴール地点では田切ネットワークのイベント参加者とも合流。鉄道・アニメファンと地域の皆さんが入り混じる形で大いに盛り上がりました。

☆

このように見てくると、鷲宮も木崎湖も田切駅・伊那市駅も、ファンにとっては第二のふるさと。まつりやイベントはまさに里帰りであり同窓会。そして、そこに集う同窓会のメンバーの中に大好きなアニメのキャラクターもいる。という感覚なんですよ。つまり、こうした祭りは、地域の皆さんとアニメファン、そしてアニメの登場人物が、立場や肩書き、次元の壁を越えて(笑)、一同に会して旧交を温める重要な日なわけです。そんな中でも土師祭は最大規模のお祭りです。

実際に生まれた土地以外にも、自分を受け入れてくれる心があるところがあるというのはとても豊かなことだと思います。そして、そうした第二の故郷を生んでくれた素晴らしい作品に心から感謝したいと思います。

今年の土師祭も、伝統的な祭りや学園祭と同窓会と一緒に開催されるような盛り上がりになりますことを、そしてアニメ聖地の素晴らしい歴史がまたひとつ刻まれますことを心から祈念申し上げます!